



スーパーが大節電対策を敢行！ 本気で“節電”と向き合う舞台裏とは？

店舗リニューアルを機に 空調・冷蔵機器を一新！

節電責任者であるサニーアクシス南国店の大野店長に話を伺うと「昨年の3・11の大地震をきっかけに全社で節電意識がさらに高くなり、対策に乗り出しました」と話す。電気機器は修繕よりも買い替えをした方が節電には効果的なので、15年経過した空調から更新し、冷蔵ケースも10年を経過したものから取り替えた。「10年前に比べると空調・冷蔵庫ともに4割程度の節電効果が出ています。リニューアルに際し、店内にLEDを導入しました」。さらに店内で空調の効きが一律でなかった吹き出し口の位置を変更した。

多店舗展開をする会社においては、年間の電気代はなんと6億円にもものぼる。企業の社会的責任も大きいですが、そこから生み出されるコストカットのメリットはかなりありそうだ。



▲省エネ性能の高い冷蔵ケースに生まれ変わった。



▲店内照明にLEDを導入。

節電要素を洗い出し 徹底的に検証！

各店舗に設置されたデマンド監視装置は使用電力が設定値に近づくと、店長らの携帯電話に警告が入る。そしてパソコンで電力使用量のグラフやピーク予測などが簡単に見られる仕組みだ。「毎日節電と闘ってますから（笑）、今ではその日のピークもだいたいわかります。不思議なもので、日々電気使用量と格闘していたら、見えるはずもない電力状況が見えるようになってくるんです」と店長。

全ての照明をチェックして無駄なものは徹底的に間引いた。冷蔵ケース周辺では棚下照明をやめ、上部から蛍光灯を設置する『オーバークャノピー』を採用。必要な蛍光灯の本数が減り、さらに冷蔵効率もUPした。また、営業時間外の無駄な電力を減らすため『ナイトカーテン』も修繕。空調機器や冷蔵ケースのフィルター清掃も徹底。1年に2回の清掃を各テナントにもお願いしている。冷蔵機器に関しては自動で霜取りを行うため、電力使用のピークが重ならないように1台ずつ設定も変更。できることは徹底的に行い、検証し、使い方を見直すことで大きな効果をあげている。



▲▶店長の携帯が鳴ると要注意！ パソコンでデータチェック！



▲ナイトカーテンも新調！



▲オーバークャノピー照明。全体に光が当たるので十分明るい。

取り組んでみて

店長 大野 雅弘さん

節電責任者がチェックし、管理しているからこそ実現できていると思います。テナントさんにもその想いは伝わっていて、各店の電気使用量も着実に減少。徹底的に見直したので、今後が大変ですが、留まることなく対策を練っていきたいと思います。



サニーアクシス南国店 (株式会社サニーマート)

高知県南国市大桶乙 1009-1
☎ 088-863-1861
<http://www.sunnymart.co.jp/>

業種：流通・スーパー

「今、できること」で省エネ！ 全従業員への“見える化”で意識向上

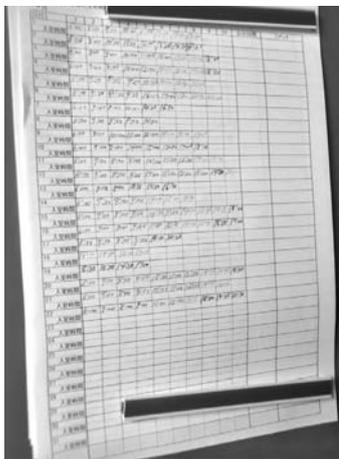
エコアクション21に賛同し 電気代を削減

高知県下4店舗のサービステーションを展開する同社。エコアクション21に賛同し、本社と各店舗で様々な省エネ対策を実践している。

まず、曙町といちご野の店舗内の照明をLED化。仁井田の店舗では24時間営業ではない利点を活かして、営業時間外に自動販売機の照明を毎日落としていく。また、空調の設定温度を夏は28度にし、人のいる場所でしか使用しないことを徹底。環境管理責任者の須原氏は、「簡単なことばかりなんですけど、色々やっていくことで電気の使用量をかなり抑えられましたね」と語る。他にも、一日の最後にしか使用しないプリンターは使用時のみ電源入れ、待機電力対策も怠らない。

また各店舗において、さらに無駄を省くために行われているのが『不要時点灯回数チェック表』と『消灯シール』だ。チェック表は、各部署・倉庫にシートを貼り、出入りが頻繁ではない部屋は入室時刻を記入し、不要時点灯していればチェックするというもの。「実施当初は作業が増

▲待機電力削減も大切。



▲こちらがチェックシート。見える化の重要さが見える。

えましたけど、やっていくうちに当たり前になっていきました」と言う。そして照明スイッチには『消灯シール』を貼り、“見える化”することで、全従業員への意識喚起にも繋げている。

お客様へも省エネ意識を伝達

自社での取り組みを強化する一方、来店されるお客様へもエコ意識をお伝えするべく、手作りのチラシ『季節報』を配っている。「年に2〜3回の発行なのですが、長浜サービステーションで実施しています。季節感のある情報に加え、エコな取り組みなども掲載。燃費のよくなる方法などの情報もあります。少しでもお客様にそういった考えが伝わればと思つて始めたんです」。

他にも新規事業として「生ごみ処理機」の販売代理店を始めると、社会貢献の意味合いも含めて、社内のみならずその意識は“外”に向かって動き出している。



▲消灯シールは大きく、見やすく！



▲お客様へ「季節報」を直接手渡し。心のこもった手作りチラシはもらう側も嬉しい！

取り組んでみて

主任 須原 康仁さん

細かいことですが、従業員一人ひとりが意識することで省エネは実現できます。チリも積もれば、その効果は大きくなりますから。また、月1回の各店舗の責任者ミーティングにおいても、お互いに問題点を出し合って改善していくことにしています。



高知スタンダード石油株式会社

高知県高知市曙町 1-2-25
☎ 088-844-1212
<http://www.kochistd.co.jp/>

業種：石油製品の販売、環境機器の販売

原田氏はさらに「今回取り組んでみて、随分と認識も変わりましたし、電気の使い方の方の見直しもできました。アーケードもリニューアルしたんですが、全国では初めて『熱線反射ポリカーボネート板』を使用して、紫外線・赤外線をカットした直射日光を街に取り込みました。これも電気代のカットに繋がります」。

2013年度以降、徳島県商店街振興組合連合会でも同様の取り組みを実施していく予定。先駆的で熱心な取り組みが、いい波及効果を生んでいるようだ。

照明のLED化と エアコンフィルターの清掃

NPOなどの省エネ診断の結果を元に、まず行ったのはLED電球の導入。各店舗の交換が可能な箇所から実施していった。診断結果によると、①店舗の中には電球の種類が多く、統一性に欠け、多くの在庫が必要②照明の発熱が空調設備への負荷となっている③消費電力の大きい白熱電球が多い、などが挙げられた。解決方法として採用されたのがLEDだ。「LEDは確かに高額ですが、ランニング費用はグッと下がる。環境保全対策としても商店街として取り組むべきと判断しました」。商店街として照明に統一感が出て、活気のある店舗づくりの第一歩となった。

それ以外にもコンソーシアムは「すぐに行ける取り組み」として、エアコンフィルターの定期清掃を提案。商店街は客売であるためエアコンの設定温度を下げることは難しいが、フィルターを掃除するだけでその効果はすぐに表れた。「清掃方法も教えていただき、これならすぐに出来ると思いました。少しの手間で大きな効果。それならまずやる、ということです」。また、昔から「街ぐるみの緑化をしたい」という想いをカタチにして、商店街内に大きな植木を設置し、緑化活動にも貢献。鮮やかな緑は商店街の賑わいにも一役買っている。



環境に優しい街づくりを目指し、
コンソーシアムを結成！
本気でエコ活動を実践している“優良商店街”。

緑化活動の一環。
商店街が明るく映える！



全国初！
熱線反射ポリカーボネート板。
晴れの日はかなり明るさだ。

徳島市東新町1丁目商店街 振興組合

徳島県徳島市東船場町 2-42
☎ 088-622-5604
<http://www.nmt.ne.jp/~sinmati1/>

取り組んでみて

理事長 原田 吾朗さん

将来的には商店街内の全店舗で実行していきたいと思っています。結果は出てきているので、それを各店舗にフィードバックして、有効性を浸透させていきたいです。我々の活動が全国の商店街に広がっていけば最高ですね。



▲こちらがコンソーシアムの会議風景。活発な意見交換が行われる。

コンソーシアムの結成

徳島市の「徳島市東新町1丁目商店街」。長い歴史を持つこちらの商店街でもエコ対策が熱心に行われている。商店街には35の店舗があり、各店舗に聞き取りを行ったところ、11の店舗から賛同が得られた。「すべての店舗が賛同してくれたわけではありませんが、それでも多くの店舗が協力をしてくれました。環境に優しい街づくりを目指して取り組みました」と理事長の原田氏は語る。

実施体制として、同商店街を中心に徳島県地球温暖化防止活動センターなどと「コンソーシアム（共同体）」を結成。エコ活動をどう行うかを検討する場所として、定期的に会議の場がもたれている。そのメンバーでもある「NPO法人 徳島環境カウンセラー協議会」が、賛同している店舗に対して無料で省エネ診断を行い、その結果を元に行うことになる。